

「緑色の水槽の生き物 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

喫茶店の店先の水槽からもらった「緑色の水」…その正体は間違いなく植物プランクトンなのだが、そのまま顕微鏡で見たのでは、あまり個体が発見できなかった。私は「プランクトンの濃度」に問題があると思った。もっと濃縮すれば、子どもでも容易に観察できるようになるだろう。



まず、ろ紙を使って、水を濾してみることにした。しかし、この方法は失敗だった。プランクトンがあまりにも小さいので、ろ紙を通過してしまうのだ。しかもろ紙の目が詰まって、しまいには全く水を通さなくなってしまった。



水の入った容器は、そのまま数日間放置しておいた。よく見ると容器の底の縁に、濃い部分ができていた。どうやらプランクトンが沈殿したようだ。

喫茶店の前の水槽は、水槽の水全体が常に緑色に濁っている。しかし、中にはメダカがたくさんいて、これも小さいながらも、常に水をかきまぜている。しかし、メダカのない静かな容器に数日間入れておいたので、いくら小さくて軽い植物プランクトンでも、重力で底に沈んだのだろう。



さっそく、底に沈んだプランクトンを、子どもたちと観察してみた。思った通り、たくさん見える。イカダモの仲間、ミカヅキモの仲間に加えて、活発に動き回るミドリムシもたくさんいる。子どもたちはおぼけのような形でフワフワ動くので「おぼけちゃん」と呼んで、大人気だった。



今回は 400 倍 (接眼 10×対物 40) も挑戦させた。400 倍だと、イカダモの細胞の内部まで見えてくる。